

平成25年度 第1回 府中市高齢者保健福祉計画・  
介護保険事業計画推進協議会会議録

1 日 時 平成25年6月19日(水)午後6時30分～8時20分

2 会 場 市役所北庁舎3階第3会議室

3 出席者 <委員>

鈴木(眞)会長、佐藤副会長、近藤委員、澤田委員、篠崎委員、鈴木(恂)委員、  
田口委員、能勢委員、原田委員、向井委員、村松委員、矢ヶ崎委員、  
山口委員、渡邊委員

<事務局>

(高齢者支援課)

川田福祉保健部次長兼高齢者支援課長、  
安齋地域支援統括担当主幹兼施設担当主幹、  
浦川高齢者支援課長補佐兼介護保険担当副主幹、石谷包括ケア担当主査、  
楠本地域支援係長、鈴木福祉相談担当主査、三竹地域ネットワーク担当主査、  
山中介護予防担当主査、立浪介護サービス係長、田中事業者指導係長、  
林介護認定係長、鈴木施設担当主査、石附事務職員

(地域福祉推進課)

宮崎地域福祉推進課長補佐兼福祉計画担当副主幹

(地域包括支援センター)

府中市地域包括支援センターよつや苑、府中市地域包括支援センターあさひ  
苑、府中市地域包括支援センターしみずがおか、府中市地域包括支援センタ  
ー泉苑、府中市地域包括支援センター安立園、府中市地域包括支援センタ  
ーかたまち、府中市地域包括支援センターしんまち、府中市地域包括支援セン  
ター緑苑、府中市地域包括支援センターにしふ、府中市地域包括支援センタ  
ーこれまさ、府中市地域包括支援センターみなみ町

<コンサルタント会社>

(株式会社生活構造研究所) 半田氏、早福氏

4 欠席者 松本委員

5 傍聴者 3名

6 議事前

- (1) 委員の交代
- (2) 地域密着型サービス指定部会の委員の選任

## 7 議事事項

- (1) 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に係るアンケート調査について
- (2) 府中市地域包括支援センター活動報告について

## 8 議事内容

- (1) 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に係るアンケート調査
    - ア 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に係るアンケート調査について、  
資料1～資料4に基づき説明があり了承。
    - イ 質疑応答、意見等
- 会 長 第6期の計画策定に向けて12種類のアンケートの実施が事務局から提案されているが、資料1～資料4についてご意見、ご質問はあるか。アンケートの項目、対象は概ね前回は踏まえて作成されている。内容は次回に詳しく検討していただくことになっている。
- 委 員 前回は計画策定のため12種類のアンケートを実施している。前回実施して、あまり重要でないこと、また拡充した方がよいことなどの総括はしているのか。
- 事務局 前回アンケートについては、分析中であり、第6期計画に向けて見直している。その結果は機会があればご報告したい。
- 会 長 大きな問題や課題がないため、前回は踏まえてアンケートを作成していると思う。見直しの結果、大きく変えることは可能なのか。
- 事務局 前回と同じ12種類だが、アンケートの7と12については医師会との連携が必要と考えており、基本的視点としては医療と介護の連携、認知症への対応を第6期計画の重要課題と捉え、アンケート内容を進化させている。
- 委 員 各アンケートに対象者数が示されている。そのベースとなる数を分かる範囲でよいので示して欲しい。そうすると抽出数の意味が具体的に分かる。また、40歳以上の第2号被保険者の問題は見えにくい。事業所対応ということになっていると思うが、触れなくてよいか。
- 事務局 ご指摘の点については、次回までに検討したい。
- 会 長 抽出者数のベースの数がどのくらいなのか、他の自治体でも出されている意見。ベースの数に対する抽出者数の割合が分かると良い。
- 委 員 第2号被保険者は利用できるサービスが少ない。
- 事務局 第2号被保険者の介護保険認定者については市では把握している。その方をどのようにアンケート対象に組み込めるか検討させていただきたい。
- 会 長 第2号被保険者の利用者だけを特化してアンケートをする必要性があるか。65歳以上の利用者に含まれると、埋もれてしまう懸念もある。
- 委 員 前回のアンケートを踏まえてやるということだが、前回、回収率が高くなか

ったものは質問項目について考慮するなど、回収率が高くなるよう工夫して欲しい。

事務局 アンケートの回収は、配布した方へ督促を行う他、市の広報やホームページでアンケートを行っていることの周知を図っている。さらに徹底したい。

副会長 アンケート7の医療と介護の連携は確かに重点的課題だが、アンケート対象を認知症高齢者の家族に絞るのはなぜか、その意図を聞きたい。また、アンケート5の施設入所者は7～8割が認知症の方と言われている。アンケート票を実際にみないと分からないが、イメージを教えて欲しい。

事務局 アンケート7の対象を認知症の家族に絞ったのは、6期計画の重点課題を「介護予防のさらなる充実」と「医療と介護の連携」、特に「認知症高齢者の人と家族が安心して暮らせる体制づくり」としている。そのため、アンケート対象を認知症の家族に絞った案を提案している。

副会長 医療と介護の連携を必要としているのは認知症家族に限ったことではないが、アンケートを実施する段階で、市として認知症を重点的にフォーカスする方向であれば、それで良いと思う。

会 長 癌末期などの重い病気の人・家族も介護と医療との連携が必要になっている。そこをどう考えるか。対象を認知症に絞ってよいか。

委 員 医療体制の再編が進められる中で、早目に退院させられる人が多くなっている。在宅で医療が必要な人に対してのどんな支援が必要か、特養は医療が難しい。介護と医療が連携しないと在宅が成り立たない状況がある中で、認知症家族に絞るのはどうか。地域実態を把握するアンケートにするためには認知症に限定するのはどうか。

会 長 認知症家族への支援体制づくりの強化に焦点を絞ることは、国の方向もあると思うが、それと関連しているのか。

事務局 以前から認知症の人・家族の支援体制づくりを市の重点課題と考えているがなかなか上手くいっていない。そのため今回は認知症家族を対象に絞ったアンケート案を提案した。「施設から在宅へ」という大きな方向については市としても認識しているので、今日のご意見を踏まえて、対象者を検討する。

会 長 認知症家族だけでなく、脳梗塞、末期癌の家族も対象にする可能性があるというお答えと思う。次回に提案されるアンケート内容を待ちたい。

委 員 アンケート7の対象者のサンプリングはケアマネジャー経由となっている。認知症に焦点をあてる場合、ケアマネジャーが担当している利用者の中から抽出することになるので、アンケート項目を精査する必要がある。明確にしないと調査がやりにくい。また、ケアマネジャーがケアプラン作成に際し医療連携加算等を少しずつ増やしている。その実態を把握したいなら、ケアマネジャーの数を限る方法もある。考察点をはっきり示して欲しい。

副会長 今の大きな流れは、老人ホームや病院ではなく、「可能な限り在宅での生活」となっている。その場合、医療依存度の高い人は、医療と介護の連携体制が整

わないと自宅では暮らせない。その場合、どのようなシステムが必要なのか、アンケートを調べなくても既に分かっていることも多い。したがって、とりわけ困難度の高い認知症の介護者について調べ、的確なサービスを提供したいという市の意向も理解できる。特にケアマネジャー経由としているのはデリケートな難しいアンケートなので専門職を通じてやると理解している。

委員 現場で接していると、高齢者は認知症が年齢なりに出てくるが多臓器障害の方も多。様々な薬も出ているが、認知症で困るのは糖尿病の人はカロリーの制限があっても、家に帰ると甘いものを食べてくる。認知症がこれから大きな問題であることは確かだと思。多臓器不全の高齢者の問題を考慮して、認知症を中心に考えていただければと思。

会長 アンケート7については、対象者を認知症に限定するか、重度の医療を必要とする人にも広げるか、両方の意見がでた。前回との比較もあるので、今日の意見を踏まえて、次回までの事務局の宿題としたい。次回は事前にアンケート票を送っていただいて、委員の方にもんでいただくことにしたい。

## (2) 府中市地域包括支援センター活動報告

ア 府中市地域包括支援センター活動報告について、**資料5**～**資料6**に基づき説明があり了承。

イ 質疑応答、意見等

会長 それぞれの地域包括支援センターが様々な良い取り組みを行っている。ここで聴くだけではもったいないと思ったが、ご質問・コメントをいただきたい。

委員 地域包括支援センターが地域の中で活動していることは良く分かった。一方で昨年、孤独死が15件あったということだが、地域包括支援センターとして必要な取り組みがあったかなど、検証をしているか、教えて欲しい。

事務局 孤独死については精神科医を招き各地域包括支援センターが参加して事例検討を行った。

事務局 15件について市として分析した。必ずしも高齢者のみではなく、背景に貧困の問題が絡んでいる。市としては見守りを行っているが、努力しても漏れてしまう人がいる。そこをどう発見し、どう支援していけばよいのか。

会長 定義を死後1週間以内とすれば孤独死の数はもっと増える。虐待と判断された事例も36件あるが、虐待には全体としてどう対応しているか、教えて欲しい。

事務局 虐待の場合は当事者と養護者の分離を図り、施設に入ってもら場合もある。

会長 「未来ノート」は、改訂の余地はあるのか。

副会長 「未来ノート」は完成品なのか、改訂の余地はあるのか。

事務局 4月1日から、社会福祉協議会と高齢者支援課で1冊350円で販売している。市のホームページでも公開している。

副会長 印象として、病気、葬式、遺言などの内容となっていてどちらかという暗

い。表紙にある「自分らしく生きるために」という視点の内容がない。どちらかという、サービス側の視点で作られているが、もっと、自分はこうしたいなど、利用者側の視点が欲しかった。

会 長 エンディングノートなので、病気、葬式、遺言などの内容となる。  
事務局 根底としては自分らしさの実現、前向きに生きるためのノートを考えた。背景として、銀行や弁護士会が発行しているものは財産、相続に特化したものが多いので、市としては自分の人生を振り返って書き記せるものを作ろうと考えた。このノートは好評で、NHKや読売新聞などマスコミが取り上げ報道したので売れ行きが良く、増刷している。今後、改訂時には、今日のご意見を反映したものを検討したい。

会 長 せっかくなので地域包括支援センターのサロンや認知症サポーター養成講座等、市民がくるところでPRすると良いのでは。

事務局 市の委託で社会福祉協議会が作成したもので、市の発行物である。販売すると現金の取り扱いがあるので、地域包括支援センターでの販売は考えていない。  
地域包括支援センターしみずがおか

次回の地域支援連絡会のテーマを「未来ノート」とした。社会福祉協議会の方を講師に招いて実際に話を聞く予定になっている。

委 員 現在好評でマスコミで取り上げられ、他市からも問い合わせがある。3,000冊増刷中であり、これ以上積極的にPRすることは考えていない。

地域包括支援センターにしふ

「未来ノート」は暗いという市民からの意見もある。このような情報を集めながら作っていくものだと思う。

会 長 他に意見はないか。

### (3) 開催日程について

次回開催については平成25年8月上旬を予定。

以上